



JAEA原子力国際人材養成コース

原子力人材育成ネットワーク事務局

日本原子力研究開発機構

原子力人材育成センター

生田 優子

背景

原子力人材育成関係者協議会最終報告書
福島原子力発電所事故を受けてのネットワーク提言
原子力人材育成の今後の進め方
原子力人材育成の課題と今後の対応

『国際的視野を持ち、

世界で活躍できる高い資質を有する人材』

...を育成する必要性



国内人材の国際化分科会において

原子力国際人材養成コースを提案

平成24年度より毎年開催

目的

- 中長期的に国際原子力人材を拡充するため、幅広い原子力関係者を対象に、英語を勉強する「動機付け」、「キャリアデザイン」、「長期的な学習の方向付け」を与える。
- より上級となる国際コース (IAEA マネジメントスクール、世界原子力大学の夏季研修等) 参加のためのステップアップを図る。
- 福島原発事故後の状況や抱えている課題、原子力を取りまく世界情勢を知り、視野を広げるとともに、自らの英語で説明できるようになる。

開催概要 -1

<第1部 オリエンテーション>

- 1) **開催期間**: 平成27年11月27日(金)
 - 2) **開催場所**: 日本原子力研究開発機構 東京事務所
 - 3) **内 容**: 合宿前導入研修 (参加者数 22名)
 - ・第2部 国際人養成合宿の概要説明
 - ・Opening Talk “Building global capacities”
 - ・Commencement Lecture
 - “Cultural differences for a curious Japanese going abroad”
 - ・Team Building “Intro BINGO”
 - ・English Interview (British Hillsでの英語クラス判別)
- 合宿開始までの期間-
- ・Telephone Interview(1回必須、希望で3回まで)
 - ・課題(授業関連サイト予習、キーワード提出、スピーチ準備等)

開催概要 -2

＜第2部 国際人養成合宿＞

- 1) **開催期間**: 平成27年12月14日(月)～12月18日(金)
- 2) **開催場所**: ブリティッシュ・ヒルズ
- 3) **研修生**: 22名(電力6、メーカー11、JAEA5)
- 4) **講師陣容**: メンター兼講師2名(外国人1、日本人1)、招聘講師3名、事務局兼講師・メンター2名
- 5) **内容**: 一部のセミナー等を除き、研修は英語で実施
 - ・Lecture Topics(講義-グループ・ディスカッション-発表) 9hr
 - ・Business Programme(British Hills担当) 9hr
 - ・Group Project 7hr
 - ・Nuclear English 1.5hr
 - ・Enhancing English Speaking Capability 6hr
(Toastmasters, Round Table, Morning Seminar等)
- 6) **研修費**: 78,000円 (宿泊費・交通費も、参加者負担)

実施風景

Lecture Topics



○ [講義 (1.5hr) -グループ討議 (1hr) -発表 (0.5hr)] × 3

英語力、所属等を参考に若手研修生を3グループに分け、講義後に講義内容を受けた課題を用意し、グループごとに討論しまとめたものを直後に発表する形式で実施

講義のテーマは以下の3つ。

- Fukushima Nuclear Accident
-A TEPCO Nuclear Engineer's Perspective
- Nuclear Energy Introduction in New Comer Countries
- Radiation Risk in Post-accident Conditions



実施風景

Business Programme

○英語専門講師による研修(1.5hr) × 6

ブリティッシュ・ヒルズ専属の外国人講師
による授業

2グループに分かれ、ポイント・ノウハウを
学んだ後に実践を行う

- Presentation Skills-1, 2
- E-mailing
- Social English
- Discussion-1, 2



実施風景

Group Project



○グループワーク (5.5hr)

○成果発表会 (1.5hr)

事前に4つテーマを提示し、希望を取り、人気の高かった3つのテーマを選択。

希望に沿って3グループに分け、1グループにメンターを1~2名配置。

討論・発表資料作成を連日重ね、最終日にグループごとに発表。

テーマは、以下の3つ。

- Options for the management and disposal of spent nuclear fuel
- The role of nuclear technology in addressing global warming.
- How can “1mSv/y” be justified or rephrased to the general public

実施風景

Enhancing English Speaking Capability

○英語を勉強する「動機付け」、「キャリアデザイン」、「長期的な学習の方向付け」を与えるために、種々の試みを実施（7hr 強）

-Nuclear English 日本人が間違えやすい英語表現・文法の説明、練習問題

-Round Table 日本の日常生活、スポーツ、芸術・文化、歴史、日本人の特質等をテーマにして、英語で表現する練習

-Round Table Talk 海外での経験談、国際的な仕事をする際のコツ等



-Toastmasters Club

自分の考えたテーマでスピーチをする、セッションを進行する、スピーチを評価する、即興で喋る等を経験する。

英語を今後練習する方法の紹介

- Morning Seminar

スピーチ・講演・コミュニケーションの際の注意事項



アンケート結果

- ・アンケートでは、各講義については、有効度・理解度・内容を、コース全般については、総合評価、コース構成、講義、ディスカッション、コミュニケーション、ロジ等について評価して貰った。
- ・総合評価では、参加者全員が大変良い(17名)又は良い(5名)との評価、来年本コースが開催された場合に同僚や後輩に勧めますかとのアンケートでは、全員が勧めるとの回答であった。
- ・講義項目の中では、Group Project と Toast Masters の評価が最も高く、ブリティッシュ・ヒルズの講義項目の中では、E-mailing, Presentation Skillsが高評価であった。
- ・全体的なコメントとしては、
 - 福島、原子力に対する知識不足の実感
 - 原子力他社との共同作業をとおした人的ネットワーク構築
 - 国際人材となるモチベーションアップ ...が、多かった。



まとめ

- 若手22名に対し、専門外の原子力分野についての理解を深め、直面する課題を共有する場を提供するとともに、英語で考えを発表する機会を多く設け、グローバルな感覚を疑似体験して貰った。
- 導入研修、英語で発言する各種取組み、更に授業以外の日常生活においてもイギリス式環境下にて英語での対応を行い、英語を勉強する動機づけ、英語のコミュニケーションスキルアップを効果的・効率的に行った。
- 研修生間／参加者間のネットワークを構築した。

<今後に向けて>

- 国際化する対象としてのニーズに合わせたコースの構成、原子力関係知識の習得と英語能力向上のバランス調整を検討
- フォローアップコース/セミナーの検討
- 短期コースで得られる成果は限られるので、参加後も研修生が自己研鑽していくきっかけとなるようなコース内容の検討